

『アンテベラム』

現実と虚構の境界

- ストーリーテリングの中核 → 現実と虚構の曖昧性
- 主人公ヴェロニカ
  - 
    南北戦争時代の奴隷
  - 

    成功した社会活動家
- 恐怖と混乱
  - ２つのシーンが交互に描かれる
  - 現実と夢の区別つかず…

恐怖のメカニズム

- テーマ「人種差別の歴史が現代にもたらす影響」
- 奴隷扱いのヴェロニカ
  - 実は拉致されていた
  - 現代のリアリティーショーの一環
  - 過去の再現を強いられる

視聴覚的な表現技法

- プランテーション → 南北戦争時代を忠実に再現
- 「過去の暗さ」と「現代の明るさ」の対比 → 時間の断絶を視覚的に強調
- 視覚と音響の完璧な融合 → 深い感情を揺さぶる体験

※ 本マップに使用している画像の著作権は、当該映画の製作会社に帰属します